

# 心電図検査って？

## 心電図検査で何を調べるのだろう？



- ① 不整脈の有無
- ② 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)の有無
- ③ 高血圧を伴う心肥大の有無
- ④ 心臓病の有無

心臓の疾患に関わる検査の中でも比較的簡単に行えるので、病気発見の第一の手がかりとしてよく用いられるのが心電図。

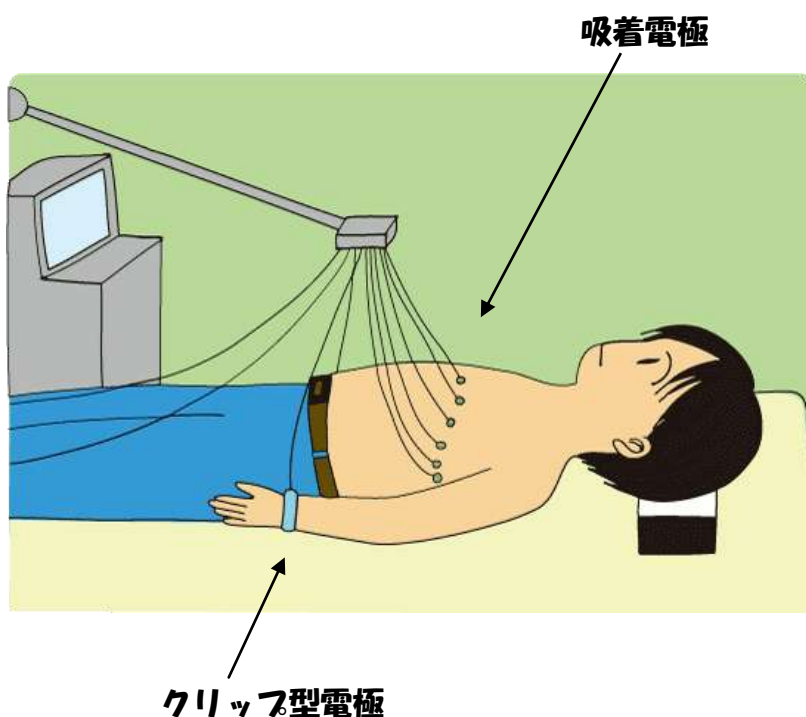
心電図は、心臓が動く時発生する電流を体表面につけた電極から検出し、機械で拡大して記録したものです。

心電図は、不整脈や心筋梗塞などの虚血性心疾患、心臓病などの診断に役立ちます。

しかし心臓のことが何でもわかるわけではなく、症状があったら心臓超音波や負荷心電図など合わせて行う必要があります。

検査は左右の手足にクリップ型電極を、胸に6つの吸着電極をつけて行います。

検査時は、「裸の胸」と「素足の足首」ができるようにして仰向けになっていただきます。



## Q & A

Q:感電の危険性は？

A:機械から身体に向かって電気は流していないので、痛みや危険性はなく安全です。  
妊娠中の方でも、安心して検査を受けられます。

Q:「力を抜いてください」とよく言われるのですが？

A:体に余分な力が入ると、心臓以外の体の筋肉からも余分な電流が発生するためきれいな心電図が記録できません。緊張や発汗があっても検査に時間がかかります。  
検査時は、楽な姿勢でリラックスしてベッドにお休みください。

## 心臓からの危険信号「不整脈」を見逃さないで！

心臓はポンプのように膨らんだり縮んだり(これを拍動という)して全身に血液を送っています。  
その回数はなんと1日10万回！もあります。

そのリズムは、右心房の上部にある洞結節という特殊な心筋細胞の集まりから心臓に出される電気刺激が心筋に伝わり、電氣的興奮が起こって収縮という現象を起こします。1分間に約60～100回です。

この正常洞調律以外の心臓のリズムすべてを不整脈というのです。

不整脈のすべてが悪いのかというと、実はそうともいえません。

不整脈の多くは気にしなくてもいいものですが、血圧の低下・冷や汗・目の前が暗くなるなどの症状を感じるときは要注意。

自覚症状を感じたり、健康診断などで不整脈が発覚したら、一度は専門医の診察を受けてみましょう。

## 24時間休まず見守るホルター心電図

不整脈や狭心症はいつおこるか判らないため、短時間の心電図検査では異常が発見できないことが多いのです。

そこで携帯型の小さな装置・ホルター心電図で24時間連続して心電図を記録し、コンピューターで解析、診断します。

これにより、心電図変化を捉える可能性が飛躍的に高くなりました。